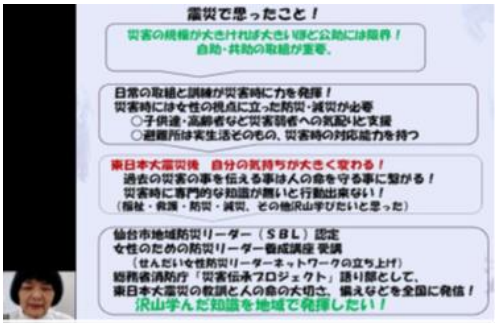
開催地名：大阪府大阪市西淀川区	
開催日時	令和 4 年 10 月 4 日（火）　10：00 ～ 11：00
開催場所	西淀川区内各避難所（事前収録による配信）
語り部	大内　幸子　（宮城県仙台市）
参加者	西淀川区内各地域　地域活動協議会防災役員、地域住民（約 2,000 名）
開催経緯	当区は南海トラフ巨大地震の際に浸水が想定されており、発生に備えて防潮堤耐震化といったハード対策に加え、早期避難意識の徹底や平時からの備えといったソフト対策が重要となっている。そのため、避難の重要性への意識啓発は 継続的な課題となっており、今回東日本大震災の語り部から避難に関してのお話を伺うことで、関係者及び住民の認識を高めることとしたい。
内容	（１）福住町の紹介 福住町は仙台市の東北部に立地する 1,500 人前後の新興住宅地で、七北田川と梅田川に囲まれており、過去に台風や豪雨による水害災害を度々受けている。東日本大震災時は、七北田川を遡上した津波が瓦礫とともに町のそばまで遡上した。2003 年に発生した宮城県北部地震をきっかけに自主防災組織を結成し、夏祭りを通じての住民の参加及び協力を得ながら地盤を作り、防災活動に取り組んできた。できるだけ行政に頼らない地域力を特徴とするもので、町内あげての災害対策を意識して進めてきた『福住町方式』と呼ばれている取組みには、要支援者の名簿作成、住民全員の名簿作成（１年更新）、仙台市内外の町内会・市民グループとの災害時相互協力協定の締結、お互いにできる範囲内での支援と交流（14 団体）が挙げられる。2004 年 10 月に発生した新潟中部地震の際には、小千谷市に向けて、福住町から始めてとなる災害ボランティアを派遣している。 （２） 3.11 （東日本大震災発生）の１日の動きと、避難所の状況 東日本大震災の際も、炊き出しなどの訓練を行っていたので普段通りの活動ができた。安否確認を行い、公園にトイレと災害時瓦礫置き場を設置、小学校集会所でアルファ米のおにぎりづくりを行った。高砂小学校が避難所となり、500 人収容の避難所に 2,000 人の避難者が集まった。仮設トイレは外にあって和式だったので、足の不自由な高齢者には不便で不評だった。この震災以降は、避難所のトイレについては洋式に変えてもらう要望もあげてきた。当時の避難所運営の防災マニュアルは男性主体であり、女性参画が無かったが、女性たちが自主的に動くことで、子どもや高齢者などの災害弱者への女性の気配りが高く評価されたと言える。 小千谷市からは支援物資を積んだトラックが、11 時間かけて駆けつけてくれた。災害時相互協力協定を締結していたからとは言え、有難さを痛感した。 （３）震災で思ったこと 災害規模が大きいほど、公助には限界がある。自助・共助の取り組みが重要と 感じ、併せて災害時には女性の視点に立った防災・減災が必要と強く感じた。また、過去の災害について伝えていくことは、人の命を守ることにつながると認識し、災害に関することを

	積極的に学び、その学びと経験を発信していくことを　意識し始めた。女性のための防災リーダー養成講座を受講し、せんだい女性防災リーダーネットワークを立ち上げ、災害伝承プロジェクトの語り部として、東日本大震災の教訓と人の命の大切さなどを発信し、人材育成活動を継続しているところである。 （４）福住町の活動について 　福住町の防火・防災訓練では、災害時の対応、減災を「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに毎年訓練している。15 年前から消防署の指導ではなく、福住町独自の企画と運営で、「全員参加型」を目指す防災訓練である。震災後、避難所運営マニュアルも変化し、避難所は体育館から校舎の２～４階に避難する、簡易トイレは７対３で洋式が増加といった事象に加え、避難所運営委員企画員として女性の参画等、女性の参画の大切さを示す事柄も出てきている。 　福住町の災害履歴とマップ作りを目的とした防災まち歩きや、地域保育園での防災訓練、締結している災害時相互協力協定団体からの定期的な訓練への参加など、できることはやり続けたいと考え、継続して行っている。 （５）みなさんにお伝えしたいこと 　できるだけ行政に頼らない地域力を持つこと、地域の災害の歴史を次世代に根気よく伝承していくこと、備えや準備・取り組みをしている事は災害時のリスク削減に繋がること、お祭りやイベントを通じ、顔の見える関係が減災に繋がること、学校の防災教育と地域防災のタイアップが、地域の発展と防災力向上に繋がっていくことについて、福住町では真摯に取り組んできた。是非とも参考にしていただきたいと思う。防災・減災を進めていくには工夫と努力と知恵が必要だ。自分の命を守るため、大切な家族を守るため継続していれば、災害が起きた時には必ず役に立つと思っている。 
開催地より	東日本大震災の体験談、教訓についてわかりやすくご説明いただき、災害に対する準備の重要性や様々な工夫について認識を深めることができた。今後の各地域での防災活動で参考にしていきたいと思う。